

中崎透 フィクション・トラベラー



【展覧会概要】

展覧会名：中崎透 フィクション・トラベラー

会 期：2022年11月5日(土)～2023年1月29日(日)

開場時間：10:00～18:00(入場は17:30まで)

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日、年末年始(2022年12月27日(火)～2023年1月3日(火))

ただし1月9日(月・祝)は開館、1月10日(火)休館

入 場 料：一般900円、団体(20名以上)700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※年齢のわかる身分証明書などが必要です

●一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

●学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第1金曜日(12月2日、1月6日)100円

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助 成：一般財団法人自治総合センター

協 力：株式会社葵建設工業、トヨタカローラ新茨城株式会社、
サントリーホールディングス株式会社

企 画：竹久侑(水戸芸術館現代美術センター芸術監督)



【概 要】

本展は、ズレをテーマにゆるやかな手法で多様な作品を制作する、美術家・中崎透による美術館初の大規模個展です。中崎が近年展開する、インタビューをもとにした文学的インスタレーションに着目し、水戸および水戸芸術館を読み解く最新作を発表するとともに、代表作を含む旧作も取り上げ、中崎透の全貌を紹介します。

1976年、水戸で産声を上げた中崎は高校時代に当館の活動に出会い、美術家を志す道に進みました。以来、鑑賞者として当館の企画展に触れ、2007年に水戸に拠点を移してからは美術家としても当館の活動に携わるようになりました。本展では、中崎の出身地である水戸と中崎にとって最も身近な美術館である当館をモチーフに、当地および当館にまつわる「もうひとつの物語」を、インタビューとリサーチを通して独自の視点から浮かび上がらせます。また、看板をモチーフとした初期作から、絵画やドローイング、過去のインスタレーションの再構成、カラーアクリルと蛍光灯による近年の立体作品まで、新旧の作品を織り交ぜることで中崎の活動の軌跡をたどります。

生い立ちから現代美術との出会い、そして美術家として活動する今へ——自叙伝的な色合いをも帯びた、出身地ならではの記念碑的な個展といえるでしょう。

物心ついた頃から、テレビのゴールデンタイムには時代劇「水戸黄門」が流れ、自分の住んでる街の名前がテレビに毎週映っているのは、子どもながらになんとか誇らしかったりした生粋の「水戸っぽ」であるわけだが、自分の祖父が実は水戸黄門だとずっと思い込んでいた夢から覚め、サンタクロースはいないという現実を知ったのは幼少の頃。水戸黄門が諸国漫遊というほど日本中を歩いたわけでもないらしいと知ったのはもう少し後のことだっただろうか。

ただ、かといって物語から醒めるわけでもなく、そもそもがテレビの時代劇という虚構を前提としての娯楽であるように、芸術もまた物語や虚構と現実のはざまを絶え間なく行き来するなかで織り成された「越後のちりめん問屋」のようなものである。僕はたぶん虚実の隙間をうろうろと20年以上旅をしている。冗談のような嘘が、時として夢のような現実を生む力になることをきっと信じているんだと思う。

——中崎透

【作家略歴】

美術家。1976年茨城県生まれ。水戸市を拠点に活動。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を用いて、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど様々な形式で制作を展開している。個人としての活動に加え、2006年にアーティスト・ユニットNadegata Instant Partyを結成、2007年にはオルタナティブ・スペース「遊戯室（中崎透＋遠藤水城）」を設立。「プロジェクトFUKUSHIMA!」では2011年発足当初より主に美術部門のディレクションを担う。



【本展のポイント】

① 当館が所在する水戸市出身／在住の美術家・中崎透による初の美術館個展

水戸に生まれ育った中崎透は、18歳の頃から当館の活動に触れ、美術家を志す道に進みました。つまり、1994年以降、かれこれ四半世紀以上にわたって当館の企画展を中崎は鑑賞してきたことになります。2007年に水戸に活動拠点を移して以来、中崎は鑑賞者および美術家の両面で当館と関わりを重ねてきました。この度、中崎が近年展開している手法に着目し、美術館における初の個展開催のために中崎透を招聘します。出身地での個展として、本展のために制作される当地特有の最新作が目玉です。

② 水戸という地域および水戸美術館をテーマにした最新作を発表

中崎は近年、ある特定の場について、関わる人びとにインタビューを行い、抽出した言葉をもとに独自の視点から物語を構成し、その場の歴史や特質にちなんだ文学的なインスタレーションを制作しています。本展では、水戸および水戸美術館をモチーフに、それぞれに縁のある男女5名にインタビューを行い、また当館の設立に関わる著書を調査したうえで、水戸と水戸美術館をめぐる「もう一つの物語」を浮かび上がらせます。なかには中崎の両親によるインタビューも含まれ、自叙伝的な色合いを帯びた出身地ならではの記念碑的な作品をつくり上げます。

③ 初期作から近作まで、中崎透の活動の軌跡がわかる回顧的要素も

本展は初期作から近作まで中崎透の活動の軌跡がわかる回顧的な要素も備えています。代表作である看板をモチーフとしたシリーズ「看板屋なかざき」から、絵画やドローイング、過去のインスタレーションの再構成、カラーアクリルと蛍光灯を素材に用いた立体作品、そして水戸にちなんだ最新作まで、新旧の作品を織り交ぜながら、中崎透という美術家の全貌を紹介します。

④ 代表作「看板屋なかざき」の新規注文を募り、公開制作を実施

展覧会会場の最後の展示室では、会期の前半、「看板屋なかざき」の新規制作を公開で行います。中崎の作品としての「看板」の注文を事前に募り、発注者と受注者である中崎との二者面談を経て、実際に看板を制作します。会期後半には完成した集合看板が展示されます。

【関連企画】

■ アーティストトーク

中崎透が本展のために制作した最新作を中心に、展覧会および自身の活動について語ります。

進行：竹久侑（本展企画者、現代美術センター芸術監督）

日時：11月5日（土）14:00～15:30

会場：水戸美術館内

定員：40名（予定） ※要予約 / 先着順 / 10月10日（月・祝）受付開始

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。

■ 「看板屋なかざき」注文を承ります。大募集＆公開制作

本展会場に掲出したい「看板」の注文を募ります。実在の会社や架空の店舗、好きな言葉、誰かへのメッセージなど、注文者の希望を中崎透が自身の作品としてアレンジし、ちょっとねじれた看板に仕上げます。公開制作も実施。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

日程：11月6日（日）～20日（日）の金／土／日曜

※13日（日）をのぞく

会場：現代美術ギャラリー

件数：24件 ※要予約／先着順／10月10日（月・祝）受付開始

料金：1,100円 ※別途、展覧会入場券が必要です。

※11月6日（日）から12月20日（火）までの間、不定期で公開制作を実施します。

そのうち上記の日程は受注者である中崎と発注者との二者面談を会場にて行います。



参考図版「看板屋なかざき」2014
撮影：小山田邦哉

■ 「プロジェクトFUKUSHIMA!」ドキュメンタリー映画上映＋トーク

日時：12月3日（土）映画上映のみ 15:00～ ※要予約

12月4日（日）映画＋トーク 14:00～16:30 ※要予約／先着順／11月5日（土）受付開始

「プロジェクトFUKUSHIMA!」の発起人のひとり大友良英（音楽家）と同ドキュメンタリー映画監督の藤井光（美術家）をゲストに、同プロジェクトにおける中崎透の関わりや経緯などについて語ります。

会場：水戸芸術館内

定員：40名（予定）

料金：500円 ※別途、展覧会入場券が必要です。

■ Nadegata Instant Party上映＋トーク

中崎とともにNadegata Instant Partyとして活動する野田智子（アート・マネージャー）と山城大督（美術家）をゲストに、2009年に当館での展覧会のために制作された映像《学芸員Aの最後の仕事》を振り返り、中崎透の真髄に迫ります。

日時：1月14日（土）14:00～16:00

会場：水戸芸術館内

定員：40名（予定） ※要予約／先着順／11月5日（土）受付開始

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。

【展覧会関連 教育プログラム】

■ 視覚に障害のある人との鑑賞ツアー「session!」特別編

2010年より当館では、全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんをナビゲーターに、見える人と見えない人が一緒に会話しながら展覧会を鑑賞するツアーを行っています。今回は鑑賞後に展覧会出品作家の中崎透を迎えてのフリートークを加えた、特別編にて開催予定です。

日時：12月11日（日）、18日（日）

各日10:00～12:30／14:30～17:00

会場：現代美術ギャラリー

定員：各回5名 ※要申込／抽選

料金：1,500円（展覧会入場料を含みます）

申込期間：10月8日（土）～11月6日（日）



撮影：佐藤理絵

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：11月19日（土）より毎週土曜日 各日 15:30～40分程度

※ただし、他のプログラムとの関連で中止となる場合があります。

会場：現代美術ギャラリー

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。



【同時開催】

■ クリテリオム99 榎本浩子

「クリテリオム」は、若手作家と当館学芸員が共同企画する新作中心の展覧会シリーズです。

今展では、他者とのつながりや日々の出来事を題材に、弱さや傷つきやすさとその修復をテーマに作品を制作する榎本浩子を紹介します。

榎本は群馬県生まれ、現在も同地を拠点に活動しています。活動初期より、ドローイングやテキスト、写真、映像など複数のメディアを組み合わせたインスタレーションを発表。近年では、植物や蜜蝋など、傷の治癒に用いられる素材に関心を寄せ、それらを取り入れた制作や活動に取り組んでいます。その作品は生産性や消費を優先するなかで見過ごされてしまう記憶や弱さを受け容れ、時間をかけ、見守ることで生まれる傷の修復や変化に目を向けます。

この度の展示では、自身に起きた修復の経験、新潟での滞在制作の過程で生まれた作品群とともに、その後も生まれ続けるゆるやかな変化をとらえた新作を発表します。

作家ウェブサイト：<http://hirokoenomoto.com/>

会期：11月5日（土）～2023年1月29日（日）

会場：現代美術ギャラリー第9室 料金：展覧会入場料に含まれます。

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団 企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

※クリテリオムは、ラテン語で「基準」を意味し、若手作家の新作を中心に紹介する企画展です。



展示風景：「たゆたまりに小石をひとつ」
アキバタマビ21、
3331 Arts Chiyoda、東京、2022

■ Everyday Art Market by Satoru Aoyama + ATMフェイス

人と機械の関わりや労働をテーマとする刺繍作品をつくってきた現代美術家の青山悟と、自発的に手芸クラブ「ふえいす・らぼ」を行っている当館案内スタッフ（通称：ATM フェイス）は、共同プロジェクト「Everyday Art Market by Satoru Aoyama + ATM フェイス」を2020年6月より実施してきました。本展では、その活動を紹介します。

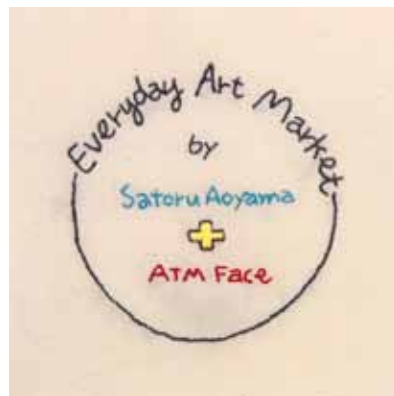
会期：10月1日（土）～11月30日（水）

開場時間：10:30～18:00

会場：エントランスホールおよびミュージアムショップ・コントロールポアン

料金：無料

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団



■ 日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2022水戸」収穫祭

2005年の個展「日比野克彦の一人万博」をきっかけに全国に広がった「明後日朝顔プロジェクト」を今年も開催しています。秋の種の収穫、春の苗植え、夏の開花という朝顔の育成を通して、人と人が出会い、地域と地域がゆるやかにつながっていくプロジェクトです。来年に向け、水戸での記憶のつまった種を収穫します。また、朝顔の蔓で特大のクリスマスリースをつくり、12月には当館エントランスホールに展示します。

日時：11月12日（土）10:00～17:00（小雨決行。荒天時翌日順延）

会場：広場回廊2階

料金：無料

主催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団

協力：水戸21の会、茨城県立大子清流高等学校、株式会社水戸京成百貨店、サントリーホールディングス株式会社

■ 造形実験室

2022年9月より月替わりでさまざまな素材を使って造形を楽しむ2日間の「造形実験室」を開催しています。11月は「染め」、12月は「ガラス」が素材です（1月は未定）。年齢を問わず、どなたでも参加できます。

日時：11月18日（金）、19日（土）、12月9日（金）、10日（土）、
2023年1月20日（金）、21日（土）各日10:30～12:00／13:30～15:30

会場：現代美術ギャラリー内ワークショップ室

料金：無料 ※予約不要



プレス向け内覧会のお知らせ

2022 年 11 月 4 日（金） 14:00 ～ 15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：中崎透（出品作家）

竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：竹久侑（芸術監督）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

* 詳細は公式ツイッター http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

- [JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後、駅方向に戻り、すぐの交差点で大通り（国道50号）を渡り、そのまま真直ぐにお進みください。徒歩2分。
◎料金：特急 片道3,890円／普通各停 片道2,310円（2022年8月現在）
※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。JR 東日本旅客鉄道 Tel.029-221-2836 <http://www.jreast.co.jp/>
- [高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。
◎料金:東京駅－水戸駅 片道切符 2,120円。ツインチケット（2枚綴り回数乗車券4,000円）。（2022年8月現在）
※詳しくはこちらをご参照ください。 茨城交通 Tel.029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>
- [お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面にお進みください。約20分、国道349号との交差点「南町3丁目」（左手にみずほ銀行）で左折、2つ目の信号でまた左折してください。そこから1つ目の信号を過ぎたところで水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場のマークが見えます。
◎駐車場料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円／営業時間：7:00～23:00
※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。
東日本高速道路「ドラぷら」 Tel.0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



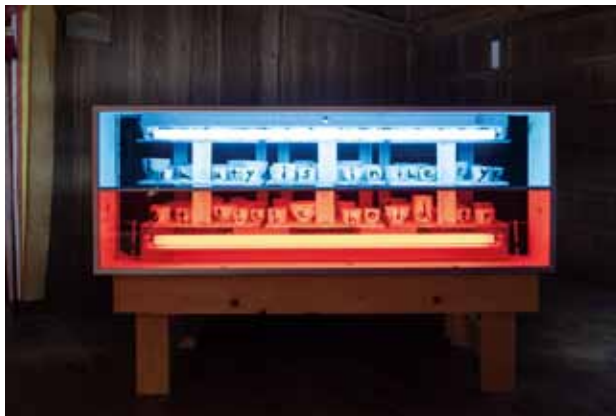
2



3



4



5



6



1. 中崎透《color or white》2007 撮影：柳場大
2. 中崎透「Poolside Snowman」展示風景 2021 撮影：門間友佑
3. 参考図版：中崎透《Peach Beach, Summer School》2019 撮影：越後谷出
4. 中崎透《Beauty is in the eye of the beholder》2021 撮影：柳場大
5. 中崎透《welcome girl》2020 撮影：大谷健二
6. 中崎透《地雷注意！》2002 撮影：柳場大